

より良い世界の構築へ向けて

20世紀は激動の時代でした。世界規模での紛争と緊張が相次ぎました。第1次世界大戦では同盟関係、第2次大戦では敵国同士であった日本とカナダは、戦争の経験を十分に生かし、戦後は世界とアジア太平洋地域の平和と安全保障を推進する立場を貫いています。

社会的価値観の似通った両国は、恵まれない国や社会の未来を少しでも明るいものにするために、国際開発援助の推進に積極的な立場をとっています。

近年、日本はより安定した世界の実現に向けて平和維持活動などに関心を高めています。カナダは1956年以来、国連の平和維持活動(PKO)に積極的に取り組み続けてきました。その経験とリーダーシップはこの分野における日本の活動を支援し、現在、両国はごく自然に結び付いたパートナーとして協力し合っています。1990年代に入ると、平和維持活動など、国際紛争の処理と緊張緩和の方法についてアジア各国の知識と理解を広めるため、両国は協力して取り組んでいます。

最近では、決意と洞察力のある国々がチームワークと創意と不屈の精神をもってことに当たれば、より人間の安定した世界の建設に向けて前進できることを、日加両国の行動は示しています。日本とカナダは互いの力を認識し、かつ補い合いながら、世界の変革を目指して協力の度を深めています。小型兵器拡散阻止

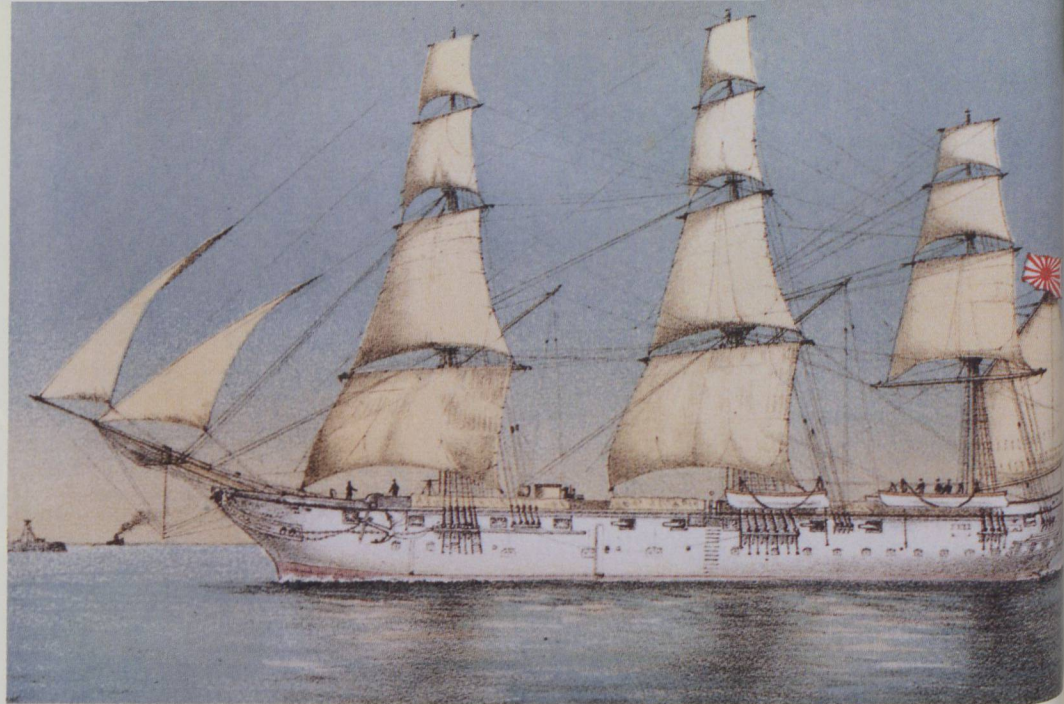
キャンペーン、子供の兵士採用に反対するキャンペーンなどはその一例です。

1997年の「対人地雷の使用、生産、備蓄、移転を全面的に禁止する条約」の署名、批准に続き、カナダと日本は様々な地雷除去プロジェクトで協力を開始しました。

国際開発協力においても、両国の協力は盛んに行われています。ODA(政府開発援助)における長い経験と実力が高く評価されているカナダは、開発援助に積極的な日本の望ましいパートナーです。両国の援助機関同士の提携や人的交流、アフリカ・中東・アジアにおけるチームワークなどを通じて、日加両国は、人権侵害・社会不安・紛争の原因となる貧困、低開発、治安不良、民主制度の欠如といった問題に取り組んでいます。

カナダも日本も多国間アプローチと強力な国際組織を重要視していることが、軍縮や核実験、化学兵器、ルールに則った貿易システムの育成、国連の機構・財政改革など、今日の様々な課題の解決に緊密な協力関係を築く結果となっています。

21世紀をより良い、より平和で繁栄する世界にする---日本とカナダがこの目標を実現する新しい方法を探るとき、こうした国際協力はますますその生産的意義を強めていくでしょう。



In June 1880 the Japanese naval training ship "Tsukuba", carrying 335 crew members, pays a visit to Esquimalt, British Columbia.

En juin 1880, le "Tsukuba," navire-école de la marine japonaise, visite Esquimalt, en Colombie-Britannique, avec à son bord un équipage de 335 marins.

1880年6月、日本海軍の訓練船「筑波」が、乗組員335名を乗せてブリティッシュ・コロンビア州エスキモルトに寄港した。